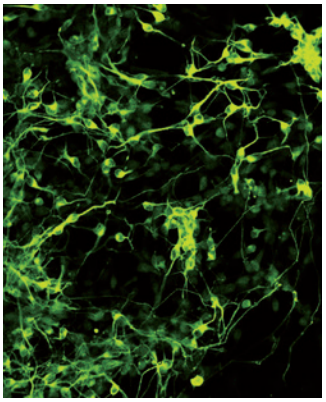
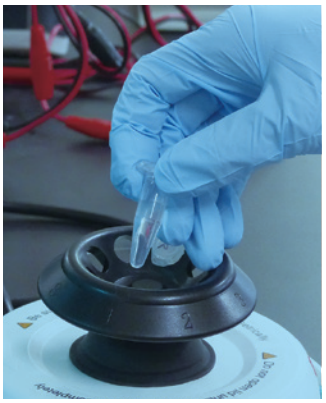
Nara Institute of Science and Technology
NAIST

NAISTバイオ卒業生のための博士後期課程入学のご案内













バイオサイエンス領域長
出村　拓

領域長挨拶

「Newton（ニュートン）」という名前の赤い表紙の科学雑誌は皆さんもご存じではないでしょうか？中学生の頃、友人の家に遊びに行ったときに友人が定期購読していた「Newton」をペラペラとめくってみると、すごく面白い話がたくさん掲載されていて、どの記事を読んでもワクワクしたのを覚えています。元々、理系少年ではあったのですが、とくにどの分野に興味を持っていたわけではありませんでした。そんな中で、自分でも「Newton」を購読し、次第に生物学に心惹かれるようになりました。とくに、マウスを用いた分子生物学の世界に魅了されました。感覚的に生物学はただの暗記、と思っていたのですが、生物の世界はもっと分子的な法則に支配されている、ってところが面白く、高校に入る前に大学では生物学を学ぼうと決めていました。その後、無事、地元仙台の東北大学理学部生物学科に入学しましたが、真面目に生物学を学ぶ訳でもなく、4年次の研究室配属の時期を迎えました。当初からの興味のまま「マウスの分子生物学」の研究室も考えましたが、結果的に「植物の分子生物学」の研究室を選び、その流れで今に至っています。当時の日本はまだバブル期で、修士課程の同級生達の多くは一流企業への就職を決めていく中、私自身はもう少し好きな研究を続けたいと思い、博士課程に進学しました。博士課程では、修士課程に比べて格段に力が付いたと思います。何よりも、自分で考えて、自分で研究を進めることができるようになりました。もちろん色々な失敗もありましたが、日々、新しいことに挑戦できるのが楽しく、ワクワク感の連続で、あっという間の博士課程の3年でした。博士号取得後は大学で助手（今の助教）の職を得て、理化学研究所のポジションを経てから、奈良先端科学技術大学院大学で研究室を持つことができました。最近、これまでの研究成果の社会実装に向けて、兼業でスタートアップ（ベンチャー）を立ち上げるなど、学術界だけではなく、産業界にも関わりを持っています。スタートアップでの活動はとても新鮮で、日々ワクワク感があります。

皆さんは今、ワクワク感のある生活を送っていますか？新しいことを始めるとワクワクしますよね。新しいことを始めるのはいつでも大丈夫です。この冊子を手に取っているということは、皆さんは博士課程進学に興味を持っていること言うことではないかと思います。皆さんもご存じの通り、本学バイオサイエンス領域は、間違いなく、皆さんをワクワクさせることができる場所です。是非とも挑戦してみて下さい。



キャリアの可能性を ぐん と広げる博士号

大学・研究所でのポスト（役職）

大学・研究所の研究職



アカデミアの研究職に博士号は必須

企業での研究開発職
（幹部候補生）



民間企業が博士号取得者を求める
傾向は年々増大中

起業
（アントレプレナー）
海外勤務
グローバルな取引



「博士」の肩書きは
ビジネスの世界でかなり有利



博士号取得でキャリアアップ！

製薬企業などで本気で研究開発をやりたい場合は
博士号が必須

入試情報

日程

春学期 第1回：8月 第2回：2月

秋学期 第1回：2月 第2回：8月

試験内容

面接　専門知識及び英語能力の試問・これまでの研究概要及びこれからの研究計画の発表とそれに基づく試問

春学期 第1回（2026年 秋学期 第2回） 入試日程

出願日	入試日
2026年 7月27日（月）～29日（水）	2026年 8月24日（月）～27日（木）

春学期 第2回（2027年 秋学期 第1回） 入試日程

出願日	入試日
2027年 1月18日（月）～20日（水）	2027年 2月15日（月）・16日（火）

https://bsw3.naist.jp/entrance/index.html



奈良先端大バイオサイエンス領域
入試サイト

詳細はこちら

博士後期課程のカリキュラム



I. 博士論文対策

バイオサイエンス領域では、博士論文作成のための独自のシステムを採用しています。

1) アドバイザーヒアリング

主指導・副指導教員を交えて、取組んでいる研究内容について、ディスカッションを行います。博士後期課程1年次、2年次は、毎年8月に開催のBio Summer Campの期間中に、博士後期課程3年次は、12月頃（秋入学の場合は6月頃）に行います。他の研究室の副指導教員と研究の進捗や進め方を議論することで、高いレベルの研究力を養っていきます。

2) プレ博士論文

博士後期課程3年次は、4月頃（秋入学の場合は10月頃)に、博士論文執筆の準備として、プレ博士論文を作成します。提出されたプレ博士論文は主指導・副指導教員による指導を受けることで、博士論文の執筆に活かされます。

3) 博士論文予備審査会

博士号取得に向けて、博士後期課程の研究成果をプレゼンテーションし、バイオサイエンス領域の教授・准教授に審査されます。例年1月、5月、8月、11月に開催されます。

II. 国際化教育プログラム

1）Bio Summer Campでの英語による研究発表

毎年8月に、Bio Summer Campにて英語による研究発表会が開催されます。博士後期課程1年次は、ポスター発表とショートトーク、2年次は、オーラルプレゼンテーション・座長、と毎年発表難易度のレベルをあげながら、世界で活躍するための度胸とスキルを身につけます。

2）国際学生ワークショップでの海外学生達との交流

博士後期課程2年次には、米国と中国にある交流協定校から選抜された学生と国際学生ワークショップを開催（不定期）。国際学生ワークショップでは、国際学会さながらの発表が行われます！

3） 日常的な国際交流

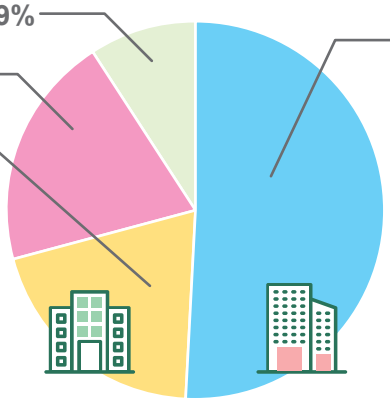
博士後期課程では、約半数が留学生になります。バイオ系トップ大学である各国の交流協定校から優秀な多数の留学生が入学してきます。そのため、日常的に英語を使う機会にあふれています。

4）その他

Bio Summer Camp、国際学生ワークショップで特に優れたプレゼンテーション、質疑応答を行った学生2名を選抜して派遣するUCDリトリート（不定期）や、UC Davis生物科学部とオンラインで繋がり論文を輪読するUCDオンラインゼミナール、英語圏の教員・研究者を招聘し集中講義と英語による議論を行う国際バイオゼミナール、ネイティブ教員による英語授業科目など、国際研究人材の育成環境が整っています。

気になる学位取得後の進路・就職先

過去3年の博士課程学生（日本人学生 35名）



奈良先端科学技術大学院大学　2名
公益財団法人かずさDNA研究所
Johns Hopkins University
東北大学
長崎大学
群馬大学

株式会社アウトソーシングテクノロジー
株式会社エコリス
株式会社常磐植物化学研究所
古河電気工業株式会社
株式会社ALBERT
中外製薬株式会社
株式会社ボゾリサーチセンター
武田薬品工業株式会社
キーエンスソフトウェア株式会社
松尾産業株式会社
住友ファーマ株式会社
積水化学工業株式会社
株式会社日本AIコンサルティング
株式会社新日本科学
味の素株式会社
共和化工株式会社
沢井製薬株式会社
株式会社pluszero

NAIST 遺伝子 ～卒業生の声～



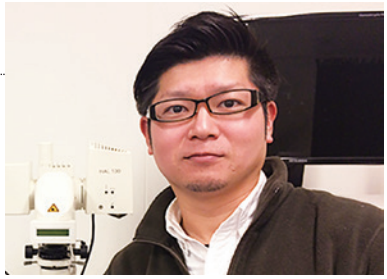
I. 大学等研究機関で活躍する卒業生

大阪国際がんセンター研究所 分子細胞生物学部門 主任研究員
（現所属：大阪国際がんセンター 研究所腫瘍増殖制御学部・主任研究員／チームリーダー
大阪大学大学院 薬学研究科 環境病因病態学分野・招へい准教授（兼任））

今川 佑介さん
Yusuke Imagawa

2007年度（博士）動物細胞工学

全文はこちら



私は今、大阪国際がんセンター（旧大阪府立成人病センター）研究所で、新規がん治療法の開発を念頭に、近年アポトーシス以外にも複数の種類が知られ始めたプログラム細胞死（制御された細胞死）ついて研究を行っています。このセンターは2017年3月に移転し現在の名称に変更されましたが、病院と研究所、がん対策センターの3部門が一体となってがんの制圧に取り組んでおり、東の国立がんセンターやがん研究会と並んで西のがんセンターとしての地位を築いています。私は奈良先端大に2002年に入学し、河野憲二教授が率いる動物細胞工学講座に参加させていただき、博士号取得までの6年間を過ごしました。河野研究室では、自分が興味を持った事象についてのびのびと自由に研究をさせてもらえ、さらに河野先生や先輩方からの丁寧な指導やアドバイス、ディスカッションがありました。（続きはQRコードから）

（独）科学技術振興機構

安達 澄子さん
Sumiko Adachi

2009年度（博士）植物組織形成学

全文はこちら



私がNAISTにお世話になったきっかけは、指導教官であった梅田正明先生のNAISTへの異動という、私自身にとってはだいぶ受け身なものでした。研究ができればどこでも同じ、という軽い気持ちも正直なところありましたが、それが良い意味で間違いであることにすぐに気付かされました。研究設備は皆で気持ちよく使えるように整えられていたほか、研究分野が多少異なっても熱心に議論をしてくれる先生方や先輩・後輩に恵まれたと思います。大学院生の頃も社会人となった今も変わらず挑戦し続けていることは、いかに自分の考えを説得力をもって伝え相手に納得してもらうか、ということです。研究のプレゼンテーションや論文執筆でも、まずは考えていることを理解してもらうことに難しさがあります。（続きはQRコードから）

II. 企業等で活躍する卒業生

中外製薬株式会社 トランスレーショナルリサーチ本部
安全性バイオサイエンス研究部

山本 穂高さん
Hodaka Yamamoto

2022年度（博士）遺伝子発現制御

全文はこちら



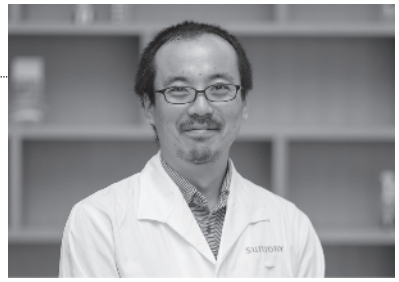
「楽しんで研究したらええ」 この言葉を聞いたのは初めて私が奈良先端大を訪れ、遺伝子発現制御研究室の研究室訪問をして別所先生とお話したときでした。この言葉の意図を当時は分かっていませんでしたが、今となっては私の研究に取り組む指針になっているように思います。 iPS 細胞が 2012 年にノーベル賞を受賞し、細胞の分化や組織の再生に興味を持っていた学部生時代の私は、そのもう一歩先、ただ細胞が分化するだけでなく、いかに生体や組織、細胞の集団は秩序立ったふるまいをするのか、を明らかにしようとする別所研の研究内容に共感して、奈良先端大への進学を決めました。 修士の頃、各学生は月 1 回、朝早くから別所先生の教授室に今月の進捗を持っていきます。そこには別所先生をはじめとしてスタッフ全員がそろっており、様々な角度から意見をいただくという会でした。（続きは QR コードから）

サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社

小埜 栄一郎さん
Eiichiro Ono

2006年度（博士）植物分子遺伝学

全文はこちら



私は 2000 年に島本功教授の研究室からサントリー株式会社に入社しました。入社以来、製品に関わる原料作物および発酵微生物の研究に携わっています。企業研究は実利を目標にするので当然、日常生活で観賞したり食したりする実用作物が対象となります。キンギョソウに始まり、アサガオ、ゴマ、ブドウ、チャ、ホップそして酵母と多種多様な生物を相手にしてきたことだけが取り柄だと思っています。入社当時は非モデル生物を扱うことに躊躇したこともあったのですが、現代は解析機器の進展に伴ってゲノム解析や代謝物分析が容易になり、研究をするうえで大きな技術的な問題はなくなりつつあります。むしろモデル生物であるという意味が薄れてきて、セントラルドグマの解明から多様性の生物学の時代になったという感があります。（続きは QR コードから）

拡がるNAIST遺伝子
- 卒業生の声 -

他の卒業生の活躍はこちら

https://bsw3.naist.jp/graduate/index.php?view=all



学生支援 ～学業・研究はもちろん、経済支援も充実～

奨学金制度

日本学生支援機構奨学金

学業・人物ともに優秀であり、かつ経済的理由により、修学が困難であると認められる場合には、本人の出願に基づいて選考のうえ、貸与されます。在学中の成績に応じて返還免除の対象にもなります。

（例）第一種奨学金（無利子貸与）：8万円、または12.2万円/月

日本学術振興会

競争率は高いものの若手研究者としてのステータスであり、研究奨励金による生活面のサポートだけでなく研究費も支給され、研究に専念できます。

（例）特別研究員（DC1/DC2） 研究奨励金：20万円/月、研究費：150万円/年

奈良先端大独自の奨学金制度

本学では、博士後期課程入学者・進学者を支援するために、以下の支援制度を実施しています。大学で枠を確保しており、学内選考で選ばれます。

NAIST Granite Program

博士後期課程に在籍する学生のうち、科学技術・イノベーションの将来を担う優秀で意欲的な博士人材の育成に貢献することを目的とする制度です。

（2025年度実績）研究奨励費：16.5万円/月、研究費：40万円/年

社会人学生への奨学支援

博士後期課程に在籍する社会人学生に対して奨学一時金を給付し、修学を支援することにより、優れた人材の育成に資することを目的とする制度です。

ティーチング・アシスタント（TA）制度の実施

将来、教育者となる意欲と優れた能力を持つ学生に、教育者としてのトレーニングの機会を提供するため、TA制度を設けています。博士前期課程2年次以上の学生を対象として、教育支援業務に従事させ、指導・教育方法を学ぶことを積極的に推進しています。

2025年度採用実績

83名採用
待遇／年間 2～96時間（時給1,326～1,500円）
※バイオサイエンス領域の実績になります。担当時間数・時給については、課程・在籍領域により変わります。

リサーチ・アシスタント（RA）制度の実施

将来、研究者となる意欲と優れた能力を持つ学生に、研究者としての研究遂行能力の育成を図るため、RA制度を設けています。主に博士後期課程の学生を対象として、本学が実施する研究プロジェクト等の推進業務に従事させ、研究活動の効果的推進及び研究体制を充実強化しています。

2025年度採用実績

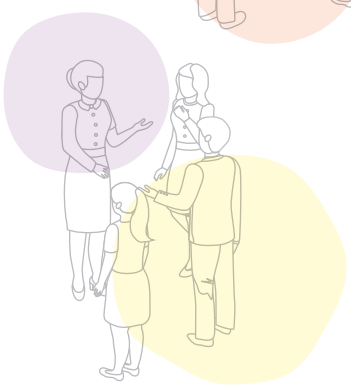
55名採用
待遇／年間 47～867時間（時給1,326～2,076円）
※バイオサイエンス領域の実績になります。担当時間数・時給については、課程・在籍領域により変わります。



入学料・授業料免除、入学料徴収猶予

本学では、以下①②の方を対象者とし、選考の上、入学料/授業料の全額又は、一部を免除する制度があります。また、入学料については、徴収猶予の制度もあります。

①経済的理由により入学料又は授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる方
②入学前1年以内に、学資負担者が死亡し、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたこと等により、入学料又は授業料の納付が著しく困難であると認められる方



積極的な海外派遣支援

共同研究、寄附金等の外部資金や各種競争的資金、支援財団による助成事業等により、学生が海外の国際学会等において論文（研究）発表するための費用（渡航費、滞在費、海外旅行保険費等）に対する助成や、英語研修や研究活動のために海外の機関への派遣を積極的に行っています。

NAIST バイオ研究室

配属：M=博士前期課程配属可能
D=博士後期課程配属可能
5＝5年一貫コース配属可能（2027年4月予定）

植物科学分野

植物発生シグナル
Plant Developmental Signaling

M,D,5

教授
中島 敬二
Prof.
Keiji Nakajima



植物科学分野

植物代謝制御
Plant Metabolic Regulation

M,D,5

教授
出村 拓
Prof.
Taku Demura



植物科学分野

植物成長制御
Plant Growth Regulation

M,D

教授
梅田 正明
Prof.
Masaaki Umeda



植物科学分野

花発生分子遺伝学
Plant Stem Cell Regulation and Floral Patterning

M,D,5

教授
伊藤 寿朗
Prof.
Toshiro Ito



植物科学分野

植物生理学
Plant Physiology

M,D,5

教授
遠藤 求
Prof.
Motomu Endo



植物科学分野

植物免疫学
Plant Immunity

M,D,5

教授
西條 雄介
Prof.
Yusuke Saijo



植物科学分野

植物共生学
Plant Symbiosis

M,D,5

教授
吉田 聡子
Prof.
Satoko Yoshida



植物科学分野

植物二次代謝
Plant Secondary Metabolism

M,D,5

教授
峠 隆之
Prof.
Takayuki Tohge



植物科学分野

植物再生学
Plant Regeneration and Morphogenesis

M,D,5

教授
池内 桃子
Prof.
Momoko Ikeuchi



植物科学分野

植物生殖デザイン
Plant Reproductive Design

M,D,5

特任准教授
水多 陽子
Assoc. Prof.
Yoko Mizuta



メディカル生物学分野

分子免疫制御
Molecular Immunobiology

M,D,5

教授
河合 太郎
Prof.
Taro Kawai



メディカル生物学分野

分子医学細胞生物学
Molecular Medicine and Cell Biology

M,D,5

教授
末次 志郎
Prof.
Shiro Suetsugu



メディカル生物学分野

RNA 分子医科学
RNA Molecular Medicine

M,D,5

教授
岡村 勝友
Prof.
Katsutomo Okamura



メディカル生物学分野

幹細胞工学
Stem Cell Technologies

M,D

教授
栗崎 晃
Prof.
Akira Kurisaki



メディカル生物学分野

多細胞機能医科学
Multicellular Network

M,D,5

教授
笹井 紀明
Prof.
Noriaki Sasai



メディカル生物学分野

器官発生工学
Organ Developmental Engineering

M,D,5

准教授
磯谷 綾子
Assoc Prof.
Ayako Isotani



メディカル生物学分野

生命システム動態
Biosystem Dynamics

M,D,5

准教授
松井 貴輝
Assoc. Prof.
Takaaki Matsui



統合システム生物学分野

微生物インタラクション
Microbial Interaction

M,D,5

准教授
渡辺 大輔
Assoc. Prof.
Daisuke Watanabe



統合システム生物学分野

オルガネラ制御生物学
Organelle Control

M,D

准教授
木俣 行雄
Assoc. Prof.
Yukio Kimata



統合システム生物学分野

環境微生物学
Environmental Microbiology

M,D,5

教授
吉田 昭介
Prof.
Shosuke Yoshida



統合システム生物学分野

構造生命科学
Structural Life Science

M,D,5

教授
塚崎 智也
Prof.
Tomoya Tsukazaki



統合システム生物学分野

遺伝子発現制御
Gene Regulation Research

M,D

教授
別所 康全
Prof.
Yasumasa Bessho



統合システム生物学分野

バイオエンジニアリング
Bioengineering

M,D

教授
加藤 晃
Prof.
Ko Kato



統合システム生物学分野

脳神経機能再生学
Neural Regeneration and Brain Repair

M,D,5

准教授
松田 泰斗
Assoc. Prof.
Taito Matsuda



統合システム生物学分野

データ駆動型生物学
Data-driven Biology

M,D,5

教授
作村 諭一
Prof.
Yuichi Sakumura



統合システム生物学分野

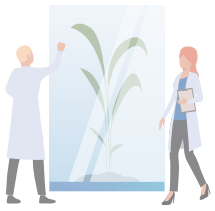
蛋白質デザイン工学
Protein Design and Engineering

M,D,5

准教授
Chek Min Fey
Assoc. Prof.
Chek Min Fey







卒業生のための相談窓口を
バイオのホームページに開設しました。

お問合せに関しては、出身研究室以外の教員が秘密遵守で対応します。



博士後期課程への入学を相談したい方へ

出身研究室でもう一度学び直したい、あるいは研究に再チャレンジしたいという方

出身研究室を主宰する教員に連絡をお取りください。直接、連絡しにくい場合は、まず「卒業生のための相談窓口」までご連絡ください。

- **卒業生のための相談窓口 ▶ https://bsw3.naist.jp/entry/doctor/**

卒業生のための相談窓口

出身研究室以外の研究室にも興味がある方

ぜひ遠慮なくいろいろな研究室の見学を申し込んでください。「いつでも見学会」を利用すると便利です。

- **いつでも見学会 ▶ https://bsw3.naist.jp/entrance/visit.html**

いつでも見学会

どの研究室を見学すれば良いかわからない場合は、まず「卒業生のための相談窓口」までご連絡ください。

- **卒業生のための相談窓口 ▶ https://bsw3.naist.jp/entry/doctor/**

卒業生のための相談窓口

Q&A

入試関係

Q. 博士前期課程の入試との違いを教えてください。
A. 最も注意が必要なのは、志望研究室を主宰する教員と連絡を取って事前に研究室の研究内容等を十分に把握してほしいという点です。

Q. これまでの研究概要のプレゼンでは、修士論文の内容と就職してからの業務内容のどちらに重点を置くのがよいでしょうか。
A. 受験時の自分の実力を評価してもらう上で、受験者自身が最適と思える内容をプレゼンしてください。必ずしも研究成果を競う場ではありません。

Q. 入試やその後の入学までの手続きなどは、どちらに問い合わせればよろしいでしょうか。
A. 進学相談室にお問合せください。入試部会長より、お問合せ内容に回答いたします。

- **進学相談室 ▶ https://bsw3.naist.jp/entry/consult/form/**

進学相談室

社会人学生

Q. 社会人を続けながら、博士後期課程に入学できますか。
A. 本学では、社会人を続けながら博士後期課程に在籍されている社会人学生もいます。
また、働きながら博士後期課程に在籍する社会人学生に対しての経済支援制度や、長期履修制度も設けています。

- **経済支援制度 ▶ http://www.naist.jp/campuslife/support/economy.html**
- **長期履修制度 ▶ https://www.naist.jp/campuslife/gakumu/long-term.html**

経済支援制度　長期履修制度

〒630-0192 奈良県生駒市高山町 8916 番地の 5（けいはんな学研都市）
バイオサイエンス領域　TEL: 0743-72-5404　E-mail: bs-nyushi@bs.naist.jp